

FITELnet-E シリーズ ファームウェア拡張のお知らせ

このたびは、FITELnet-E シリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
今回お買い上げいただきました FITELnet-E シリーズのファームウェアでは、以下の機能がサポートされています。

- ・ マイライン対応機能
- ・ 簡易 DNS 機能
- ・ マルチルーティング機能
- ・ RIP2 対応
- ・ RIP ユニキャスト送信機能
- ・ 冗長機能拡張
- ・ 設定の複製機能

これらの機能につきましては、取扱説明書に関連する記載がありませんので、この資料を参照し、設定 / 運用を行ってください。

1. マイライン対応機能

NTT グループよりサービスが提供される「マイラインサービス」に対応いたしました。
マイラインプラス契約をしている場合は、固定優先契約された事業者以外の識別番号を付加してダイヤルした場合でも固定契約された事業者経由で接続します。

その場合、前面ディスプレイには「マイラインプラス/00**にハッシンシテイマス」(**00: 正しい識別番号)の表示(約 5 秒間)がされます。マイラインプラス契約時に、固定優先契約している事業者以外を使用する場合は、先頭に「122」を付加してダイヤルしてください。なお、この機能を使用するための特別な設定はありません。

2. 簡易 DNS 機能

簡易 DNS 機能とは、本装置にあらかじめ DNS 情報を登録することにより、本装置を DNS の代用として使用することができます。

本装置の簡易 DNS 機能には、以下の 2 種類の設定があります。

2.1. ホスト名称と IP アドレスリストのリスト登録

ホスト名称と IP アドレスを IP の組み合わせを登録することができます。本装置宛に DNS 要求が来た場合、このリストを参照して応答します。

このリストに何も登録されていない場合や、リスト検索の結果、データが存在しない場合は、DNS 問い合わせパケットの中継により指定の DNS へ問い合わせます。

```
proxydnshosts [add name=<hostName> addr=<IPaddress>
```

```
| delete [all | [name=<hostName>] [addr=<IPaddress>]]]
```

登録最大件数 16 件 (キャッシュ件数: 64 件)

name	ホスト名称
addr	ホスト名称に対する IP アドレス

Web 設定画面による設定



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューの**簡易 DNS**をクリックします。



簡易 DNS 設定メニューの**ホスト名称と IP アドレスの登録**をクリックします。



HostEdit-6

ホスト名称とIPアドレスの登録

No.	ホスト名称	IPアドレス
1	Host-Kuribayashi	192.168.1.1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

送信

ホスト名称と IP アドレスの登録画面の各項目を設定後送信をクリックします。

以上で、Web 設定によるホスト名称と IP アドレスの登録は終了です。

2.2. ドメイン名称と DNS IP アドレスのリスト登録

ドメイン名称とそのドメイン名称に対応する DNS IP アドレスを登録することができます。

DNS 要求パケットにおいて、ホスト名からアドレスを参照する場合、ここで登録したリストにしたがい DNS 登録されたサーバに問い合わせます。ホスト名にドメイン名が付加されていない場合、DNS に対して問い合わせを行います。

```
proxydnsserver [add server=<IPaddress> domain=<domainName>
| delete [all | [server=<IPaddress>] [domain=<domainName>]]]
```

登録最大件数 8 件

server	DNS IP アドレス
domain	DNS に対応するドメイン名称

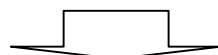
Web 設定画面による設定



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューの**簡易 DNS**をクリックします。





簡易 DNS 設定メニューの
ドメイン名称と DNS IP ア
ドレスの登録をクリック
します。



ドメイン名称と DNS IP アドレ
スの登録画面の各項目を設定
後送信をクリックします。
以上で、Web設定によるドメ
イン名称とDNS IPアドレス
の登録は終了です。

3 . マルチルーティング機能

マルチルーティング機能を使用することにより、以下のルーティングを行うことができます。

- ・送信先アプリケーションに応じて中継先を変更する。（宛先ポートルーティング）
- ・送信元端末によって中継先を変更する。（送信元アドレスルーティング）

なお、これらのルーティングの送信元端末の判断には中継パケットの送信元 IP アドレス、送信先アプリケーションは中継パケットの宛先ポート番号より認証します。

上記 2 つのルーティング制御は、併用することができます。

3.1 マルチルーティング機能 on/off の設定

multiroute [on|off]

on/off	マルチルーティング機能を使用する/しない。
--------	-----------------------

Web 設定画面による設定



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューのマルチルーティングをクリックします。



マルチルーティングを使用するかどうかをチェックします。

3.2 マルチルーティングスタティックデータの設定

マルチルーティング制御を行うパケットと、中継先のエントリを設定します。

複数のエントリに一致する場合で、`preference` が同じになってしまった場合は、データを廃棄しエラーログが書き込まれます。

```
multiroutestatic {add src=<IPaddress>[,<addressMask>]
                  [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                  {nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
                    next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}}
                  [preference=<preference>]
| delete [all][ seq=<id>][src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
          [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
          [nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
            next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}]
          [preference=<preference>]
| set seq=<id> [src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
              [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
              [nexthop={<IPaddress>|<targetname>} |
                next if={hsd|fr|isdn1|isdn2|async|dp}]
              [preference=<preference>]}
```

登録最大件数 32 件

add/delete	スタティックデータの登録/削除
set	スタティックデータの上書き
seq	スタティックデータを上書き/削除する際にレコード番号を指定する。
src=<IPaddress> [,<addressMask>]	スタティックに指定する送信元 IP アドレスの指定
dstport=<StartPort> [,<EndPort>]	スタティックに指定する宛先ポート番号の指定
nexthop={<IPaddress> <targetname>}	IP アドレス / ターゲット中継先経路の指定
next if={hsd fr isdn1 isdn2 async dp}	インタフェース中継先経路の指定
preference= <preference>	同一送信元からの中継経路が複数存在する場合の優先度を設定します。 設定範囲：0～31 工場出荷時：31

Web 設定画面による設定



Web 設定画面の**便利な設定**をクリックします。



ルータの便利な設定メニューの**マルチルーティング**をクリックします。



マルチルーティングステータスデータの登録をクリックします。





マルチルーティングスタックデータを登録します

3.3 機能適応外パケットデータの設定

ここで指定したパケットは、マルチルーティング機能を使用せず、通常のルーティングテーブルにしたがい中継します。

```
multirouteexclusive {add src=<IPaddress>[,<addressMask>]
                        [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                        | delete [all] [seq=<id>][src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
                        [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]
                        | set seq=<id> [src=<IPaddress>[,<addressMask>]]
                        [dstport=<StartPort>[,<EndPort>]]}
```

登録最大件数 16 件

add/delete	適用外パケットデータの登録/削除
set	適用外パケットデータの上書き
seq	適用外パケットデータを上書き/削除する際にレコード番号を指定する。
src=<IPaddress>[,<addressMask>]	適用外パケットの送信元 IP アドレスの指定
dstport=<StartPort>[,<EndPort>]	適用外パケットの宛先ポート番号の指定

Web 設定画面による設定

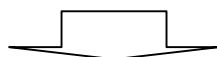


Web 設定画面の便利な設定をクリックします。





ルータの便利な設定メニューのマルチルーティングをクリックします。



マルチルーティング適応外パケットデータの登録をクリックします。



マルチルーティング適応外パケットデータを登録します

4 . RIP2 対応

RIP2 の送受信ができるようになりました。(従来は RIP1 のみ)

rtcontrol コマンドで、RIP2 の送受信を行います。

```
rtcontrol [[ip] [{lan|hsd|fr|isdn1|isdn2|async}
[sendinterval[={<sendinterval>|off}]]
[send[={rip1|rip2|off}]] [recv[={rip1|rip2|rip1rip2|off}]]
[metric=<metric>] [ageout[={<ageouttime>|off}]]]]
[rip2password=<password>]
```

send[={rip1 rip2 off}]	送信する RIP のバージョンを指定します。「off」を指定した場合は、RIP を送信しません。 設定範囲 : rip1, rip2, off 工場出荷時 : lan=on, その他=off
recv[={rip1 rip2 rip1rip2 off}]	受信する RIP のバージョンを指定します。「off」を指定した場合は、RIP を受信しません。「rip1rip2」を指定した場合は、どちらのバージョンも受信します。 設定範囲 : rip1, rip2, rip1rip2, off 工場出荷時 : lan=on, その他=off
rip2password=<password>	RIP2 を送信/受信する際のパスワードを設定します。 設定範囲:最大 16 文字 工場出荷時:なし

Web 設定画面による設定



Web 設定画面の詳細設定をクリックします。



ルータの詳細設定メニューのRIPの制御をクリックします。



RIP の設定をします。

5 . RIP ユニキャスト送信機能

ユニキャスト送信機能を使用することにより、あらかじめ登録された宛先に対して RIP を送信することができます。

これにより、宛先や送信元が nexthop ではなくてもデータを送受信することが可能になります。ブロードキャスト宛ではない RIP を受信し、指定したアドレス宛に RIP を送信します。

本機能を使用するには、rtcontrol の設定で、RIP を送受信するインタフェースに設定しておく必要があります。

```
unicastrip [[on|off]
            [{add|set} seq=<seqno> [addr=<ipaddress>][if=[hsd|fr|isdn1|isdn2]]
            [srcaddr=[normal|lanaddr]]]
            |[delete {all|seq=<seqno>}]]
```

登録最大件数 8 件

on/off	ユニキャスト RIP の送受信をする/しない。 工場出荷時：off
add/set/delete	ユニキャスト RIP を送信する宛先について、追加/修正/削除する。
seq	ユニキャスト RIP を送信する宛先について、追加/修正/削除する際にレコード番号を指定する。
addr	ユニキャスト RIP を送信する宛先の IP アドレスを設定する。
if	ユニキャスト RIP を送信するインタフェースを指定する。 指定できるインタフェースは次のとおり。hsd, fr, isdn1, isdn2
srcaddr	ユニキャスト RIP を送信する際、ソースアドレスを lan のアドレスを、 指定する (lanaddr) / しない (normal)。 工場出荷時：normal

6 . 冗長機能拡張

Layer3 監視機能を ISDN 回線で使用することができるようになりました。

wan コマンドで、dual (ISDN で 2 回線使用して通信する) 設定にして、Layer3 監視機能を設定してください。

これにより、フレッツ ISDN での常時接続回線使用時の冗長性の向上が図れます。

7. 設定の複製機能

設定の複製を簡単に行える機能をサポートしました。

例えば、1 台の装置を設定し、似たような設定を他の装置に行うような場合に、設定された装置の情報をコピーし、別の装置にペーストしてから設定を変更するといった運用が簡単に行えます。

複製元の装置のコンソール（コンフィグレーションモード）にて、display コマンドを実行し、出力された結果をパソコンのコピー機能を利用して「コピー」します。

テキストファイルにペーストして保存します。

複製する側の装置のコンソール画面で、コンフィグレーションモードに移行します。

「paramclear」と入力し、リターンを押します。

で保存したテキストファイルを、複製する側装置に転送 します。

以上の手順で、設定の複製ができます。

: Hypertrm では「テキストファイルの転送」にて、転送します。

: コンソールの設定で、行のディレイ時間（待ち時間）を 250ms 以上に設定してください。

Hypertrm では、「ファイル」→「プロパティ」→「設定タブ」→「ASCII 設定」で設定できます。

130-B0314-AN01-B